

報告 REPORT

令和5年度 北海道医師会賞・北海道知事賞 受賞者業績紹介

本誌9月（第1260）号にてご報告いたしましたとおり、10月7日（土）午後3時より、札幌グランドホテルにおいて、北海道医師会賞・北海道知事賞贈呈式が挙行されます。

ここに受賞された方々のご業績を紹介いたしますとともに、受賞者各位の一層のご活躍を祈念いたします。

— 学術部 —

令和5年度 北海道医師会賞・北海道知事賞受賞者

医師会名	職氏名	研究(業績)題名
札幌市	市立札幌病院 糖尿病・内分泌内科 部長 和田典男	原発性アルドステロン症の診断と治療に関する臨床的研究
北海道大学	北海道大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授 本間明宏	頭頸部進行がんに対する形態・機能の温存および予後の向上を目指した集学的治療の研究
	北海道大学大学院医学研究院 消化器内科学教室 教授 坂本直哉	肝炎ウイルス増殖制御機構の解明および新規治療法の開発
札幌医科大学	札幌医科大学医学部 血液内科学 教授 小ぶねまさよし	鉄代謝と造血幹細胞の研究成果から導き出された血液疾患治療法の開発
	札幌医科大学大学院 保健医療学研究科基礎臨床医療科学 教授 水口徹	プロメテウスの謎への挑戦と人の幸福を追い求める生涯の旅

北海道医師会賞・北海道知事賞

原発性アルドステロン症の診断と治療に関する臨床的研究



市立札幌病院 糖尿病・内分泌内科

部長 和田典男

和田典男先生は、昭和63年3月に北海道大学医学部を卒業後、同大第二内科に入局。その後、伊達赤十字病院、浦河赤十字病院第五内科部長、日本たばこ産業株式会社札幌健康管理センター所長を経て、平成8年4月市立札幌病院内分泌代謝内科に勤務された。平成16年に札幌社会保険総合病院糖尿病内分泌内科部長に就任後、平成26年10月から現在の市立札幌病院糖尿病・内分泌内科部長に就任されている。市立札幌病院では、内分泌専門医として診療に携わられ、特に二次性高血圧の原因として注目されてい

る原発性アルドステロン症については、病診連携により高血圧患者から拾い上げる診療体制を構築された。加えて原発性アルドステロン症の診断と治療に関する多施設共同研究を含む臨床的研究を行い、国内外での学会発表や論文として研究成果を発表され、日本からのエビデンスの発信に貢献された。さらに日本内分泌学会の「原発性アルドステロン症診療ガイドライン」の作成委員を務められた。平成29年度には永年にわたる原発性アルドステロン症の臨床的研究の成果が認められ、札幌市医師会医学会賞を受賞し、令和4年度には札幌市医師会賞を受賞した。

また、主な学会活動として、日本内分泌学会の幹事、評議員、教育育成部会委員、北海道支部監事、日本臨床内分泌病理学会の幹事、評議員も務められ、北海道における臨床内分泌学の普及と若手の育成に力を入れている。

頭頸部進行がんに対する形態・機能の温存および予後の向上を目指した集学的治療の研究



北海道大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

教授 本間明宏

本間明宏教授は、平成元年3月に北海道大学を卒業後、同耳鼻咽喉科（現耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室）に入局し、30年以上にわたり頭頸部がんの診療・研究に取り組み、大きな実績をあげてきた。

大量シスプラチンの超選択的動注療法と放射線治療の同時併用療法（RADPLAT: radiationとcisplatinを組み合わせた造語）を導入し、上顎洞がんに対して多施設共同試験（JCOG1212）を行っている。T4aN0M0症例では手術が標準治療で多くの場合、眼球を含めた拡大切除が行われるが、Primary endpointの3年生存割合でRADPLATの

手術に対する非劣性を示した（ASCO2022）。この試験の結果によりRADPLATが手術に加え上顎洞進行がんの標準治療と位置づけられるようになった。手術においても、鼻副鼻腔悪性腫瘍手術においてナビゲーション、内視鏡手術を積極的に導入し、低侵襲手術を実践し、世界的にも注目されている。

頭頸部癌診療ガイドライン作成委員会委員長として活躍するとともに、日本臨床腫瘍研究グループ（Japan Clinical Oncology Group: JCOG）の頭頸部がんグループ代表としても欧米の臨床試験グループと活発に交流し、頭頸部がんにおける日本のプレゼンスを飛躍的に向上させた。学会活動では日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事、日本頭頸部癌学会理事、Head and Neck Cancer International Group Board Memberなど、学内では北海道大学病院副院長、医学研究院副院長を務め、北海道大学の管理運営にも貢献しており、今後、さらなる活躍が期待される。

肝炎ウイルス増殖 制御機構の解明および 新規治療法の開発



北海道大学大学院医学研究院消化器内科学教室

教授 さかもと なおや
坂本直哉

坂本直哉教授は、昭和62年に東京医科歯科大学医学部を卒業し、米国コネチカット大学留学後、平成24年から北海道大学消化器内科学教室教授に就任している。消化器肝臓内科診療に従事する傍ら、これまで一貫してウイルス性肝炎の病態解明、治療法開発をテーマに研究を展開している。C型肝炎ウイルスの発見当初十分なウイルス研究ツールがなかった中、ウイルス増殖を培養細胞で再現し、高精度・高効率に検出できるHCVレプリコンシステムを独自に構築し、抗ウイルス化合物の大規模探索から、感染ライフサイクルに関わる多くの宿主因子を同定

している。特に、免疫抑制薬シクロスポリンAがHCV増殖を特異的に抑制すること、免疫抑制作用を示さずHCV増殖を抑制するシクロスポリン誘導体を同定し、この知見から抗ウイルス薬Alisporivirが開発され、開発臨床試験でウイルス駆除効果が検証されるに至っている。

北海道大学に着任後は、多施設共同臨床研究組織NORTE Study Groupを立ち上げ、B型、C型肝炎ウイルス性肝炎、肝がんの治療効果、予後予測因子および血清バイオマーカー等の探索を行い、多くの新規知見を精力的に発信し、診療ガイドラインにも多くのエビデンスが記載されている。さらに就任当時から現在までに、道内各地域の肝臓専門医数を倍増させ、肝疾患専門診療体制の整備にも大きく貢献している。以上のごとく、基礎・臨床研究、診療の両面から、消化器肝臓病学の発展に貢献している。

鉄代謝と造血幹細胞の 研究成果から 導き出された 血液疾患治療法の開発



札幌医科大学医学部血液内科学

教授 こぶね まさよし
小 船 雅 義

小船雅義教授は、札幌医科大学医学部旧内科学第四講座（現・腫瘍内科学講座および血液内科学）で血液内科グループに所属し、現在に至るまで血液学の教育・研究・診療に従事してきた。研究では、赤芽球および造血幹細胞内の遊離鉄による酸化的DNA損傷と造血幹細胞の遺伝子変異に関する基礎的研究に長く携わってきた。また、造血微細環境の間葉系幹細胞に発現する接着因子およびケモカインが造血幹細胞の機能維持に重要な役割を持つほか、白血病幹細胞から分泌される細胞外小胞が間葉系幹細胞の機能を破綻させることを明らかとしてきた。臨床では、造血不全症領域を主な専門領域としてお

り、難治性貧血領域の診療指針策定や骨髄増殖性疾患の教科書分担執筆に参加するほか、特発性造血障害調査研究班に参加することで、全国臨床試験に参加し、標準的な診断および治療の開発に携わってきた。また、北海道凝固異常症研究会の世話人として、稀な血栓症・凝固異常症の診断・治療法を、道内の各施設と連携し診療が促進されるように努めている。平成23年度から現在まで骨髄移植推進財団の調整医師として移植ドナーのコーディネートを行うほか、札幌医科大学附属病院血液内科で造血幹細胞移植ミーティングを開催し、すべての血液内科医が造血幹細胞移植医療に習熟するように努めている。また、学部教育や大学院教育にも取り組み、次世代を担う人材の育成にも尽力している。

プロメテウスの謎への 挑戦と人の幸福を 追い求める生涯の旅



札幌医科大学大学院保健医療学研究科基礎臨床医療科学

みず ぐち とおる
教授 水 口 徹

肝再生は古代ギリシア神話のプロメテウスに起源する現象である。しかし、再生メカニズムは遺伝子解析が可能になる20世紀まで神秘的現象とされた。初代培養肝細胞は生体内機能を再現でき、液性因子や遺伝子による分子機序の解明が容易である。肝細胞の成熟機能を発現するためには、ヒエラルキー化された肝細胞特異的な転写因子の相互作用が必要である。再生増殖と機能発現は相補的な関係で、双方を同時には成しえない。つまり、大量の肝細胞が損失した場合には再生増殖が過剰となり、肝機能が恒常性の維持限界を下回って低下し肝不全へと進行す

る。このことは、肝不全に対する肝細胞増殖因子療法が提唱されたが、分子生物学的機序から否定される。再生刺激によって成熟肝細胞は再生分裂するが、細胞の一部は骨髄細胞から供給されている。肝細胞の増殖を活性化する骨髄間質細胞は、細胞-細胞間増殖因子 (Jagged1) を介してIn vitroの肝細胞機能を維持する。一方、生体内の肝不全は過剰な増殖刺激 (c-myc, c-fos, AP-1) のために細胞周期が励起状態にある。増殖抑制因子も過剰に発現し増殖シグナルが刺激と抑制で相反する。肝再生におけるG2-M期の染色体分裂を担うPTTG欠損は、細胞分裂が障害され巨核細胞や細胞内脂肪滴が出現し、NAFLD/NASHに見られる肝細胞変化に類似する。現代病としてのNAFLD/NASH治療にPTTGを標的にした開発が期待される。一連の肝不全研究は外科治療の及ぼす「人の威厳・尊厳」への影響を解明するQOL研究へと続く。



北海道内科医会ならびに 日本臨床内科医会入会のご案内

北海道内科医会は、1989年11月の設立以来、地域医療の推進をはじめ会員の専門知識の研修、保険医療の改善・向上など各種事業に取り組んでまいりました。また、当医会と協力関係を持つ日本臨床内科医会は、臨床内科学の発展を図り、医療の向上を目的に1985年に創設された第一線内科医の団体です。自己研鑽のための生涯研修の推進、「かかりつけ医のためのWEB講座」の開催、高血圧・糖尿病・インフルエンザなどの疾患の研究、市民への公開講座を行うなど、臨床内科学へ大きく貢献しております。また、日本臨床内科医会の専門医は取得しやすく、専門医になると1日研修を経て総合診療専門医の指導医として認められます。

今後とも日本臨床内科医会と連携し、厳しい医療環境に立ち向かい、地域住民に質の高い医療の提供体制構築に向け努力をしております。つきましては、北海道医師会員で内科を標榜されている先生、内科に興味をお持ちの先生におかれましては、当医会ならびに日本臨床内科医会の趣旨にご理解を賜り、ぜひともご加入くださいますようお願い申し上げます。

北海道内科医会 会長 佐久間 一郎

入会申込み・お問い合わせ先 北海道内科医会事務局

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会事業第一課内

TEL 011-231-7661 FAX 011-241-3090

E-mail naika-ikai@m.douji.jp

ホームページ <https://hokkaido.japha.jp/>

